

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店（販売担当）	お客様の様子	・プロパー販売だけでは依然として買い控え傾向にあるものの、特招会や割引催事には前年以上の来客数及び売上があり客の購買意欲が向上している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・1点単価は低下しているが販売点数が増加している。
		テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・ここ1か月の来園者数が前年を若干上回ったほか10月の売店客単価が上昇している。
		テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・猛暑も収まり個人客の入込が例年並みに回復している。また、団体客も堅調に推移している。
		ゴルフ場（営業担当）	来客数の動き	・天候にも恵まれ来客数が回復傾向にあり、特に週末が良くなっている。
		その他サービス【介護サービス】（管理担当）	競争相手の様子	・同業他社は業績が上向いている。
	変わらない	商店街（代表者）	来客数の動き	・イベントが各地で開催され中心市街地商店街地域でも人の流れができてはいるが、必要以外のものの購入はなく売上に結びついていない。
		一般小売店【靴】（経営者）	販売量の動き	・在庫一斉セールを行っており、通常より販売量が増加している。
		一般小売店【茶】（経営者）	販売量の動き	・相変わらず不景気ムードは続いたままで街が静かである。周辺企業も軒並み前年実績を下回っている状況のなかで、いかに企業を維持していくかの試行錯誤を行っている。
		一般小売店【紙類】（経営者）	販売量の動き	・観光客の動向は変わらないが、地元住民の生活必需品の購入が増加している。
		一般小売店【印章】（営業担当）	来客数の動き	・個人の印鑑注文の動きが出てきたが企業からの注文が出ていない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・急な気温低下に対しても客の節約志向は変わらない。
百貨店（販売促進担当）		お客様の様子	・秋商戦が本格化し、例年であると若い客層を中心に今年のトレンドの先行購買が目立つ時期だが、今年はヤングゾーンの低迷が顕著である。ファッションをけん引する顧客も購買姿勢は慎重で、より実需型の購買に移行してきている。	
百貨店（売場担当）		販売量の動き	・10月は9月の残暑で秋冬物の動きが鈍かった反動で、月初から婦人衣料品、服飾雑貨が好調に推移した。中旬にかけても全商品群ともに好調で、苦戦していたブーツもショートブーツのトレンドがけん引し前年を上回った。店内は前年比102%で善戦するものの外商売上が若干苦戦しており、全体としては予算を若干下回る見込みである。	
百貨店（購買担当）		お客様の様子	・近隣のスーパーの閉店の影響で全体的な売上は順調に推移している。なお、北海道物産展は例年以上に売上が伸びているが、衣料関係は我々の期待に反し売上が伸びておらず客の財布のひもはまだ固いことがうかがえる。	
百貨店（売場担当）		お客様の様子	・当社の半数以上の部門で、客の購買傾向が活発化してきており、特に家庭用品や食品関連がけん引し前年実績を上回りつつある。	
スーパー（店長）		来客数の動き	・今月は円高還元セール等で客単価が大幅に上昇し売上に寄与したが、来客数の動向は変わらず景気が回復しているとはいえない。	
スーパー（店長）		お客様の様子	・販促の強化で売上は前年並みで推移しているが、給料日前後の客の消費動向が非常に厳しく、いらぬものは買わない傾向が顕著になってきている。週末は、大型ショッピングセンターへ客が多く流れており、食品単独の店舗は集客に非常に苦しんでいる。年末にかけて更に消費は冷え込む。	
スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価が伸び悩んでいる。		

コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・価格を下げて商品を出しているが、販売数量が回復せず需要が減少しており現状は厳しい。ディスカウントは若干回復しているがコンビニは苦戦している。
衣料品専門店（店長）	お客様の様子	・依然として客の財布のひもは固いが、ブーツ等でヒールの高さやボトムの幅が昨年から変わったことで一部動きが良くなってきている。
衣料品専門店（販売促進担当）	来客数の動き	・今月は来客数も増加し、売上とともに前年を上回っている。昨年に比べシャツやジャケットなど軽く羽織る商品が順調で夏場から若干伸びている。
衣料品専門店（地域ブロック長）	販売量の動き	・来客数は回復基調にあるが、まとめ買いの傾向が減少し必要なものだけ購入しており、買上点数が伸び悩んでいる。
家電量販店（店長）	お客様の様子	・家電エコポイント制度の変更に伴う駆け込み需要はあるが、品ぞろえが間に合っていない状況である。
その他専門店【海産物】（経営者）	来客数の動き	・先月と同様観光に関して、当施設は団体、個人客とも非常に増加している。
その他専門店【和菓子】（営業担当）	来客数の動き	・大きく上向くことも下降することも無い。
一般レストラン（経営者）	競争相手の様子	・近隣で新規開店やリニューアル開店の店舗が増加しているが、景気の改善による設備投資ではなく良好立地への過剰期待による出店と思われる。また、中心市街地から郊外良好商業集積地への移動にますます拍車がかかっている。最近では地元商店の地盤沈下は極度に激しくなっており、全国展開のチェーン店による低単価戦略に地元商店がついていけない状況となっている。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・売上が微増しているが、偶数月の15日以降の売上が顕著となっており、年金や子ども手当によるもので景気の回復とは言い難い。
一般レストラン（店長）	単価の動き	・集客の減少に対しランチの大幅値下げで、ようやく前年並みの売上が確保できる状況で、大幅な客単価の低下となっている。
その他飲食【サービスエリア内レストラン】（支配人）	販売量の動き	・相変わらず客の購買力が落ちており、無駄なものは買わない姿勢が顕著である。
観光型ホテル（支配人）	単価の動き	・全体の売上は堅調に推移しているが、客単価は変わらず宿泊客も減少傾向にある。
都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・宿泊や宴会部門は前年並みに推移しているが、レストラン部門は依然苦戦している。また、近隣の飲食店舗も閉鎖店を繰り返している。
タクシー運転手	販売量の動き	・大型電気店やマンション等の設備投資がある一方で、利益が上がらないという客の声が一般的である。タクシーの全体の売上は前年並みだが1人当たりの売上10%増は継続している。
タクシー運転手	お客様の様子	・これまで高齢者はタクシー利用が多かったが、市の派遣する低価格のコミュニティーバス等の利用が増加し売上は徐々に減少している。
通信会社（企画担当）	お客様の様子	・顧客との会話の中で、地元企業の撤退、縮小のニュースが暗い話題となっている。
通信会社（営業担当）	販売量の動き	・契約数は目標に達していない。
通信会社（広報担当）	販売量の動き	・9月の販売状況は引き続き堅調に推移している。販売では9月に新たなサービスを開始したこともあり、スマートフォンが好調に推移した。解約の状況は全体としては前月比で抑制できたものの、番号ポータビリティを利用した契約数は前月より若干マイナス幅が拡大している。
競艇場（職員）	販売量の動き	・入場者数ならびに売上金額ともに横ばいで推移している。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・相変わらず売上状況が不透明で、経費節減も限界である。返済条件変更等の金融緩和策で何とかしのいでいる状況である。
設計事務所（経営者）	来客数の動き	・住宅版エコポイント制度の期間延長はあったが、住宅関連の工事の受注が伸び悩んでいる。
設計事務所（経営者）	来客数の動き	・創業以来13年間経験がないが、戸建て住宅の設計の引き合いが1年以上全くきていない。

やや悪くなっている

商店街（理事）	お客様の様子	・厳しい残暑、政局への不安、円高等ももろの要素が大きく影響しているが、客は必要なものしか購入しない傾向が顕著である。生活防衛的な要素が強く、そのことが結果として景気の改善につながらない。
商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数が昼時の繁忙時にも確実に減少している。昼以降の時間帯もあまり客の入りは良くなく、夕方以降は特に顕著になっている。
商店街（代表者）	販売量の動き	・通行量は相変わらず多いが各店への来客数は大変厳しい状況で、販売数の低下並びに販売単価が低下しており各店とも苦戦している。
一般小売店〔酒店〕（経営者）	お客様の様子	・客の儉約、節約志向が強くなっており売上が伸びない。同業者も低調なようで愚痴がこぼれている。飲食店は来客数が減少しているようで注文量も減っている。
一般小売店〔酒店〕（経営者）	販売量の動き	・料飲店の販売量が全体的に減少している。焼肉屋でも一時は満席になってもピークを過ぎると来店客が全く回転していない状況である。
百貨店（営業担当）	販売量の動き	・10月の初旬は上向きになってきたと思ったが、中旬以降は下降傾向にあり多くのテナントが前年同月を下回っている。先月まで好調だったテナントも同様の状況であり、初旬が好調であっただけに、落ち込みの要因を把握しかねている。
百貨店（売場担当）	販売量の動き	・外販、催事ともに売上が伸びていない。
百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・百貨店外商関係の売上は明らかに単価が低下しており、厳しさが続いている。
スーパー（店長）	単価の動き	・1人当たりの買上数量が徐々に落ちてきており、販売数量が大幅に減少している。
スーパー（店長）	販売量の動き	・ここ数か月、来客数、販売点数、売上高はほぼ前年並みに推移していたが、ここにきて販売点数が大幅に減少している。
スーパー（開発担当）	単価の動き	・来客数が前年を下回り単価も低下している。近隣の同業他社も同様の悩みで特売単価がますます低下してきている。
スーパー（販売担当）	来客数の動き	・通常日だけでなく目玉商品を広告しても来客数が伸び悩んでいる。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数はある程度回復しているものの、ここにきて客単価は非常に低下しており売上は減少している。また、たばこ値上げの反動も客単価の低下につながっている。
コンビニ（エリア担当）	それ以外	・日常生活に欠かせない野菜の単価上昇等もあり、購入数や購入量が減少している。
コンビニ（営業担当）	来客数の動き	・9月末のたばこ特需の反動で来客数が減少している。
衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・イベント時に常連客の来店があるぐらいで、秋物の動きが例年より悪い。
衣料品専門店（地域ブロック長）	来客数の動き	・昨年に比べ来客数は厳しい状況である。また、客は必需品以外は買わない傾向が顕著である。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・エコカー購入補助金制度終了による反動もあるが、悪かった前年実績の75～80%程度で推移しており予想以上に悪い状況である。
乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・10月の販売量は前年比78.4%と大変厳しい状況である。受注ベースでは前年比70%で9月までのバックオーダーがなければ更に厳しい状況となっている。
自動車備品販売店（経営企画担当）	販売量の動き	・単価の低下を売上数で補ってきたが、ここにきて売上数も厳しさを増している。接客の面でも即決が少なくなり他店を見てからという客が増えている。
その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・今月は農繁期という要因もあるが、来客数が少なく中旬から売上が低迷している。
その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・秋冬物の展示会を2度行ったが効果がなかった。
高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・平日の夜ならびに週末の来客数が2～3か月前と比べて減少している。
観光型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・前年に比べ来客数、単価ともに減少している。

		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・円高の影響で外国人の宿泊利用が減少している。
		都市型ホテル（総支配人）	販売量の動き	・観光客の入込状況を見ると、3か月前はNHKの連続テレビ小説放映の効果により好調に推移していたが、番組終了により個人旅行者が減少傾向となっている。
		タクシー運転手	来客数の動き	・運行回数が大幅に減少し売上も減少している。
		テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・入館者数の伸びが著しく減少している。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・様々な業種の人との話では、景気の状態はどうにかならないかという話ばかりで良くなる要素がない。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・キャンペーンや広告等で集客を促しているが、夏以降客の反応が非常に悪くなっている。円高等いろいろな要因はあるが消費動向が低下している。
		美容室（経営者）	来客数の動き	・ボーナスも終わり気候も過ごしやすくなっているため、客の来店頻繁が減っており、来店間隔が長くなってきている。
		設計事務所（経営者）	単価の動き	・客の収入の低下傾向が受注単価の減少を招き、採算が悪化している。
		住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・給与の低下等により、当初計画からの縮小及び資金計画の見直しを行わなければならない状況になったという客が増加している。
		住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子	・イベントでの来客数はますますであるが、コストへの意識が一段と厳しく値引きへの要請が強い。
	悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・最近の客は割引きやポイントサービスに慣れ、普通のバーゲンでは反応がなく、よほどの企画でなければ購買に結びつかない。購買意欲が著しく落ち込んでおり生活防衛に徹している様子がうかがえる。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・暖かいためか秋冬物の動きがさっぱりである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街が冷え切っており、この状況を早く何とかしないとこれまで重要な役割を担ってきた商店街が消滅しそうである。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・競合他社のディスカウントへの業態変更がますます増えており、既存店への来客数の前年割れが続いている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・値上げによりたばこの売上は大幅に減少している。客はたばこが値上がりした分、たばこ以外の商品の購入を控えている傾向があり、たばこ以外の商品の売上も低下し、全体の売上は伸び悩んでいる。
		乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・新車が売れない。エコカー購入補助金制度終了後、売上が低迷し目を覆いたくなるような販売台数となっている。
		乗用車販売店（副店長）	来客数の動き	・9月までに比べて来客数は半分以下になっている。
		住関連専門店（広告企画担当）	来客数の動き	・単価の低下と来客数の減少がそろって進行している。
		都市型ホテル（支配人）	販売量の動き	・計画に対して大幅に未達成の状況であり、例年繁忙期となる第3四半期でも厳しい状況となっている。
		旅行代理店（経営者）	販売量の動き	・個人旅行の利用はあるものの、会社関連の大口客の旅行が皆無で、円高の効果も期待できず会社設立以来の売上の落ち込みとなっている。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼向けの工事案件、各地の焼却炉補修用材料の注文が入り生産量が増加している。
	やや良くなっている	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・長い間低迷していた海外向けの製品について、特に北米向けで注文が入るようになり、売上回復の兆しがみられる。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・起工式等に係る受注工事が増加し、現場担当者の稼働率もほぼ100%となっている。
	変わらない	木材製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・住宅着工数は回復傾向にあるものの、円高等による将来の不安や懸念が本格的回復を妨げている。
化学工業（総務担当）		受注量や販売量の動き	・円高による輸出の減少、内需低迷が大きく影響している。	

		金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・受注量は3か月前と比べ横ばいで大きな変化はないが、生産能力の60%に留まっており依然として厳しい状況である。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・受注単価が低下している。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・現在のところ受注量は3か月前と変わらない。
		輸送業（統括）	受注量や販売量の動き	・第2四半期を終え荷動きが一段落している。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・客からは今年度予算での設備投資に関する引き合いが増えているが、受注量・額ともに横ばいの状態が続いている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数、成約件数が落ち込んでいる。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・公共工事関連が相変わらず不調である。目先の資金需要から利益面よりも売上高確保のために入札するところが増えてきている。また、小売業も徐々に売上が減少しているが、原因としてネット通販に小口の顧客を取られているケースが見受けられる。
やや悪くなっている		食料品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・注文が計画に対し未達成の状況で推移している。また、計画外商品の売上増加はあるものの、本来当社が売上を計画した商品が伸びずアンバランスが生じている。
		食料品製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・通常月の通販部の売上が減っている。以前は個人単価が減少する程度だったが、受注件数が減ってきている。
		鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・エレクトロニクス関連材料の調整から受注量が急激に減少し始めている。自動車用関連部材もこれまでの受注の勢いはなく今後の減少が懸念される。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・エコカー購入補助金の打ち切りや急激な円高により輸出割合の大きな産業においては影響が甚大であり、今後も減少傾向が続く。
		建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年建設関係では今が最も売上の期待できる時期だが、今年はその売上の維持してはいるものの、昨年に比べて状況は良くない。
		輸送業（運送担当）	取引先の様子	・取引先からの荷物の発送量が少しずつ減少している。
		金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・中国やタイなど新興国の需要は好調だが、欧州や日本では販売が伸び悩み、売上高、利益は横ばいで推移している。
悪くなっている		金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の業況について、月次の試算表の提出を受け、足元の景況感と合わせ確認を行っているが、ここ数か月は総じて厳しい状況となっている。業種は多岐にわたっており、理由は猛暑、連休が短い、首都圏の印刷需要停滞等まちまちであるが、経営者からは最終的に消費心理が低迷していることに大きく影響しているとの話を聞く。春先から夏場にかけてやや底がみえてきたと思えた状況から、やや悪化している。
		農林水産業（従業者）	それ以外	・9月の状況を3か月前の6月と比較すると、水揚数量は1,472トン、水揚金額は4億9,400万円の減少である。その要因は沖合底引き網、大・中型巻き網、イカ釣り船の減少によるものである。また、前年同月と比較すると、水揚数量は50トン（前年同月比102%）の増加、水揚金額は1億3,900万円（前年同月84.8%）の減少である。その要因は沖合底引き網、大・中型巻き網、小型定置網の増加によるものである。
		その他製造業 [スポーツ用品]（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内景気が相変わらず悪いうえに、円高や中国他のアジアからの仕入単価が上昇しており、受注量の減少及び製品単価値下げにより、損益的に非常に厳しくなっている。
雇用関連	良くなっている	職業安定所（職員）	求人数の動き	・製造業の製造工や小売業の営業員の派遣求人、及び情報通信業、卸小売業のテレホンオペレーターの求人が増加している。製造業の臨時的な仕事の増加や販売関係の売上の増加を狙った電話の営業による雇用が行われている。

やや良くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・9月の新規求職者数は前年同月比5.5%、前月比2.0%の減少であった。月により多少変動はあるものの、前年度と比較して求職者数は落ち着いた動きである。
変わらない	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・求人数が前年と同等の水準となっている。
	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・企業からの求人依頼数が若干低下傾向にある。数が月前に受注した繁忙対応での派遣契約も、この時期から年末にかけて期間満了を迎えるものが多くなっている。
	人材派遣会社（支社長）	求人数の動き	・引き続き大手企業は中途採用に慎重な姿勢を維持しており、採用の基準も下がっていない。中小企業はアジアへの輸出部門等、海外展開の採用に動きがあり、医療・福祉関連は専門職の採用に動きがある。
	求人情報誌製作会社（支社長）	求人数の動き	・中途採用、アルバイトの求人数は、堅調に推移している。
	求人情報誌製作会社（広告担当）	採用者数の動き	・採用自体を控える企業は少ないが、採用数は欠員の補充など現状確保のための若干名採用という企業が多く、景気回復のため増員するという企業の声を聞くことは少ない。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は前年同月比プラスで推移しているものの、基幹産業の製造業の求人が2か月連続減少となった。特にハードウェア製造業でエコポイント制度終了を控え、生産調整に伴う求人減少がみられた。
	民間職業紹介機関（人材紹介担当）	求人数の動き	・求人数が一時的に上がるが一過性のもので継続することはない。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（サイト運営担当）	周辺企業の様子	・円高やエコカー補助金制度の終了により先行き不安を訴える企業が多く、新卒採用の計画を決められない企業が増加している。
	民間職業紹介機関（職員）	雇用形態の様子	・従来正社員として採用していた職種でも当初3～6月程度の期間を契約社員として採用するケースが増えてきている。正社員登用を前提としているが、入り口の段階でかなり厳しくなっている。
悪くなっている	-	-	-